

平成29年度自衛隊家族会事業計画

1 全般

(1) 平成29年度の特徴

ア 我が国を取り巻く安全保障環境

我が国を取り巻く安全保障環境は一層厳しさを増大している。

中国の軍事力の急速な強化や南シナ海における現状変更と既成事実化、北朝鮮による核・弾道ミサイル開発の強行、ロシア軍の活動の活発化、さらに政情不安定な韓国などが憂慮される。特に中国による度重なる尖閣諸島の領海侵犯は我が国の安全保障にとって極めて重大かつ差し迫った問題となっている。

第45代合衆国大統領となったトランプ氏は、米国の国益を最優先する政策を打ち出しているものの、安全保障についてアジア太平洋地域への関与の必要性和日米同盟の重要性の認識は継続するであろう。

また、過激派組織「イスラム国」(IS)の主としてシリアにおける破壊活動やアサド政権と反政府勢力の争いはヨーロッパへの難民の流入を助長し、難民の受け入れに関しEU各国で大きな問題となっている。さらにイギリスの国民投票でのEU離脱派の勝利やトランプ政権誕生で示された内向きの国民感情が、国際社会全体の不安定要因を拡大している。

別紙第1「我が国周辺国の状況」

イ 我が国の安全保障政策

安倍政権は、政権誕生以来、「国際協調主義に基づく積極平和主義」を国家安全保障戦略の基本理念に掲げ、限定的な集団的自衛権の行使を含む平和安全法制の整備と統合機動防衛力の構築に向けた防衛力整備を着実にを行い、より包括的で実効性のある安全保障体制を構築している。国際平和協力活動においても南スーダンPKO(UNMISS)での駆け付け警護任務が付与され、参加各国の軍隊と同等の活動が可能となった。

ウ 防衛省・自衛隊

(ア) 平成29年度は、「防衛計画の大綱」及び「中期防衛力整備計画」に基づく防衛力整備の4年度目を迎え、引き続き周辺海空域における安全確保と島嶼部に対する攻撃への対応能力の向上を柱に「統合機動防衛力」の構築を推進している。

(イ) 各自衛隊等が実施する主要事業等は以下の通りである。

a 陸上自衛隊

統合運用の下、作戦基本部隊や各種部隊等の迅速・柔軟な全国的運用を可能とするため、陸上総隊(仮称)を新編するとともに島嶼への侵攻があった場合、速やかに上陸・奪回・確保するための本格的な水陸両用作戦能力を整備するため、水陸機動団(仮称)の新編するほか第8師団及び第14旅団を機動運用を基本とす

る機動師団・旅団に改編を行って、即応性の高い態勢を構築する。

新たな装備では、ティルト・ローター機（オスプレイ）、水陸両用車（AAV7）及び16式機動戦闘車を取得する。

b 海上自衛隊

周辺海域における安全確保のため、潜水艦1隻、掃海艦1隻及び音響測定艦1隻を建造するほか護衛艦及び潜水艦の艦齢延伸措置を実施する。哨戒機P-3Cの能力向上及び機齢延伸を実施する。

弾道ミサイル攻撃への対応のためBMD用能力向上型迎撃ミサイル（SM-3ブロックIIA）を取得する。

c 航空自衛隊

南西地域における防空態勢充実のため南西航空混成団を廃止し南西航空方面隊（仮称）を新編する。

常続監視体制整備のため滞空型無人機（グローバルホーク）を取得するとともに早期警戒管制機（E-767）の能力向上を図る。

航空優勢獲得・維持のため戦闘機（F-35A）を取得するとともに三沢基地に臨時F-35A飛行隊（仮称）を新編するほか新空中給油・輸送機（KC-46A）を取得する。

部隊等の迅速な展開のため輸送機（C-2）を取得する。

d その他（職業生活と家庭両立支援のための整備）

防衛医大に託児施設を新設し、空自小牧及び入間基地に託児施設の新設・改修に向けた調査設計を行うほか、緊急登庁支援（児童一時預かり）のための備品整備等を実施する。

(ウ) 国際平和協力活動の業務を継続中であるが、南スーダン国際平和協力業務については、司令部要員を除き本年5月末で終了することが政府決定された。

- ・南スーダン国際平和協力業務（PKO）（2011年11月～2017年5月（予定））
- ・ソマリア沖・アデン湾における海賊対処（2009年3月～継続中）

(2) 業務運営方針

自衛隊家族会は、「自らの国は自ら守る」という防衛意識の普及・高揚を図るとともに、自衛隊の諸活動に対する協力を通じて、国民の生命財産を守る自衛隊員が誇りと自信を持って任務に邁進しうる環境を作るべく家族支援協力等の防衛基盤の確立・強化に寄与する。

この際、特に次の事項に留意する。

- ア 陸上自衛隊の本格的な施行に連携し、家族支援協力を推進
- イ 自衛隊家族会への整齊とした移行及び広報
- ウ 新信条の周知と自衛隊への支援活動の実践
- エ 40周年施策の実行及び具体化の継続
- オ 各推進委員会による検討施策の普及・実行

2 主要事業

(1) 全般

- ア 事業を公益目的事業、国民運動への参加及び会の充実を図る事業等に区分する。
- イ 公益目的事業を公1「国民に対する防衛意識の普及・高揚事業」及び公2「自衛隊の諸活動に対する協力・激励事業」に整理・統合する。

(2) 公益目的事業

ア 公1「国民に対する防衛意識の普及・高揚事業」

(ア) 「防衛講演会」等の実施

自衛隊家族会は、本部及び都道府県家族会（以下、県等家族会という。）が計画・実施する「防衛講演会」や研修会等への多くの国民の参加を得るとともに、有事関連法制、集団的自衛権行使、国際平和協力活動等、我が国の安全保障にかかわる諸問題や自衛隊の国内外での活動状況とその意義等について、更なる国民の理解の促進を図る。この際、いずれの場合も、防衛意識の普及・高揚事業であることから会員主体ではなく広く各界から多数の聴講者が得られるように努力する。

a 本部は、「防衛講演会」を2回計画し、実施担任は、宮城県及び石川県家族会とする。細部は、別途通知する。

b 県等家族会は、防衛講話を計画・実施する。

その際、地方協力本部と密接に連携し、地域所在の自衛隊各級指揮官等を講師として招聘し、国民への防衛問題や自衛隊への理解促進の場を提供する。

(イ) 防衛情報紙「おやばと」の発行及び拡販の推進

自衛隊家族会は、防衛に関する諸問題や自衛隊員の国際平和協力活動での状況・意義等を、広く国民に普及する。この際、効果的な拡大施策を全国に普及するなど、会員以外の読者の拡大を推進する。

a 本部は、「おやばと」を毎月1回発行する。この際、自衛隊家族会への移行を契機に、より魅力的でかつ会員のみならず広く読者にとって有益な「おやばと」を目指し紙面を刷新（カラー化、紙面構成の見直し等）する。

b 県等家族会は、会員以外の読者の拡大と会員の購読率の向上を狙いに、平成25年度から開始した「おやばと拡販ステップ・アップ作戦」に基づき、ステップ2作戦2年度として、平成28年度の購読結果及び実態調査結果等に基づき、目標を再設定して引き続き購読者の増大に努める。

c 効果的な拡大施策を全国に普及するなど、会員以外の読者拡大を推進する。
細部は、別紙第2「おやばと拡販実施計画」による。

(ウ) その他

a ホームページの充実を図り、広く一般国民の防衛意識を高め、安全保障、防衛問題に対する理解者の拡大に努める。

b 隊友会が主催する防衛セミナーに協賛する。

イ 公2「自衛隊の諸活動に対する協力・激励事業」

(ア) 陸上自衛隊が行う家族支援に対する協力

自衛隊家族会は、平成29年度から陸上自衛隊が施行する家族支援施策に対し県等家族会の体制整備や災害発生時の活動要領を具体化して積極的に協力する。

- a 県等家族会は、地域毎の特性に応じて県等家族会の協力体制の強化を図り、支援要望に対応しうる態勢を構築する。
- b 本部は、各幕僚監部と連携して、県等家族会の家族支援協力事業を支援する。このためボランティア保険制度を導入し、家族会識別用装着品を準備するとともに「家族支援協力実施の手引き」を更新する。

別紙第3「家族支援協力実施計画」

(イ) 自衛隊が行う募集・就職援護活動に対する協力

- a 県等家族会は、地方協力本部と密接に連携した組織的活動を通じて、特に厳しさを増す募集環境を考慮し募集情報の提供に努める。また、援護情報についても引き続き提供に努める。
- b 本部は、総合募集情報誌「DEFENSE WORLD 18」（2018年版）（以下、「DW18」という。）を作成・販売するとともに、県等家族会は、「DW18」を活用して、国民・企業に対し自衛隊の現状を紹介し、自衛隊後継者の募集に協力する。

(ウ) 自衛隊が行う広報に対する協力

- a 県等家族会は、自衛隊の実施する行事に関し会員等に広く情報提供するとともに積極的に参加して広報に協力する。
- b 本部は、「自衛隊家族会パンフレット」及び平成30年「家族会カレンダー」を発行する。

(エ) 隊員等に対する慰問・激励

自衛隊家族会は、平素から部隊・隊員の士気高揚について協力・支援する。

- a 本部は、国際平和協力法、国際平和支援法、国際緊急援助法及び海賊対処法等に基づく国際平和協力活動等に派遣される部隊及び隊員を激励する。この際「国際平和協力活動等支援基金」による激励品を添える。なお「国際平和協力活動等支援基金」として、県等家族会からの募金を継続するとともに、これを適切に管理・運用する。
- b 殉職隊員遺族に対して援護等の支援を行う。
- c 県等家族会は、災害派遣・演習・訓練・行事等部隊の各種活動に対して、地域毎に適時に慰問・激励する。この際、慰問・激励等への参加者の拡大に努める。

(3) 国民運動への参加

自衛隊家族会は、その目的に合致する国民運動等に積極的に参加する。

ア 北方領土返還要求署名活動

(ア) 「北方領土返還要求署名活動」を引き続き実施する。

(イ) 平成30年2月7日「北方領土の日」に開催される「北方領土返還要求全国大会」を始め、全国各地で開催される同様の催しに積極的に参加する。

(ウ) 「北方四島交流訪問事業」に参加するとともに、その成果を「おやばと」等を通じて広報し、多くの国民の北方領土に対する理解・認識の向上に努める。

イ その他

(ア) 竹島の不法占拠への抗議活動や中国等が領有権を主張し、領海・領空侵犯等不法行動を活発化させている尖閣諸島を守る運動等に積極的に参加する。

(イ) 国の安全保障・防衛問題に関する国政等への陳情・請願等の活動に参加する。

(4) 会の充実を図る事業

ア 自衛隊家族会への整齊とした移行及び広報

(ア) 本部及び県等家族会は、あらゆる機会を通じ、会員に対し家族会への移行趣旨と活動内容等について周知に努めるとともに各種手続き等の移行処置を確実に実施する。

(イ) 部隊・隊員及び関係諸団体等に対し各種手段及び機会を活用した自衛隊家族会の広報に努める。

(ウ) 新たに制定した家族会ロゴマークを活用する。

(エ) 損耗した県等家族会の会旗を更新する。

イ 新信条の周知と自衛隊への支援活動の実践

県等家族会は、新信条に基づく自衛隊への各種支援活動を実践する。

ウ 自衛隊家族会としての会勢の充実及び組織の活性化

(ア) 県等家族会は、所在部隊長等に対し家族会の理解促進を図るとともに部隊長の協力支援のもと、現役隊員家族の未加入者の加入に努める。

(イ) 県等家族会は、自衛隊家族会への名称変更や家族支援協力の推進を通じて、組織の充実及び新規会員の加入を促進する。

(ウ) 県等家族会は、それぞれの特性に応じて家族会魅力化のための各種施策を推進し、組織の活性化を図る。

別紙第4「会勢の充実実施計画」

エ 40周年施策の実行及び具体化

(ア) 自衛隊家族会の組織及び規則を見直し、逐次に改善・整備する。この際、特に県等家族会以下の組織の整備及び事務能力の強化を重視する。

(イ) 名称変更を機に会の魅力化及び活性化を推進する。

(ウ) 分担金のあり方について検討・見直し、平成30年度に新分担金制度を決定する。

(エ) 平成29年6月に(公社)自衛隊家族会「40年史」を配布する。

(5) 各推進委員会

本部に家族支援協力推進委員会、会員拡大推進委員会、おやばと拡販推進委員会を引き続き設置し、「家族支援協力」「会員拡大」及び「おやばと拡販」について、検討を継続し、その成果を実行する。

3 会議等

(1) 定期総会

定款第24条の定めることにより、定期総会を平成29年6月20日(火)に以下の主要議題で開催する。

ア 平成28年度事業報告・収支決算の承認

イ 平成29年度事業計画・収支予算書の報告等

(2) 理事会

定款第 24 条の定めることにより、以下の理事会を開催する。

- ア 第 1 回 5 月下旬 (書面決議：平成 28 年度事業報告・収支決算)
- イ 第 2 回 6 月 20 日 (業務執行理事業務報告)
- ウ 第 3 回 12 月初旬 (書面決議：平成 30 年度事業計画骨子)
- エ 第 4 回 平成 30 年 3 月中旬 (平成 30 年度事業計画・収支予算書、総会の時期・議題等)

(3) 「国際平和協力活動等支援基金」管理委員会

基金の適正な管理・運用を図るとともに、当面する具体的支援活動決定等のため、平成 30 年 2 月及び必要に応じて開催する。

(4) 地域協議会

各地域内の県等家族会との意見交換及び本部との意見調整・意思統一を図る等のため、本部との密接な事前調整の下、平成 29 年 7 月～11 月頃の間、地域ごとに地区協議会を開催する。この際、本部は、当該地域担当委員を派遣し、事業計画の説明等所要の助言を行う。

(5) 運営委員会

理事会を補佐し、理事会から委託を受けた事項等を協議するため、通常毎月 1 回開催する。

(6) 推進委員会

「家族支援協力」、「会員拡大」及び「おやばと拡販」について検討成果を推進するため、各推進委員会を必要に応じて開催する。

(7) 業務執行理事会同

業務運営を円滑に遂行するため、必要に応じて開催する。

4 県等家族会長が本部に報告する事項及び期限

別紙第 5 「報告事項及び期限」

5 主要行事予定

別紙第 6 「平成 29 年度 主要行事等予定表」

別紙第 1 「我が国周辺国の状況」

別紙第 2 「おやばと拡販実施計画」

別紙第 3 「家族支援協力実施計画」

別紙第 4 「会勢の充実実施計画」

別紙第 5 「報告事項及び期限」

別紙第 6 「平成 29 年度 主要行事等予定表」